

牟婁新報千号記念の祝宴（一九〇九（明治四二）年一月、關鷗社にて）

復刻版

むろ

牟婁新報

しんぱう

「第一期」
一九〇〇→一九二三年

◎全五巻十別冊

◎揃定価 本体四二〇、〇〇〇円十税

◎発行 和歌山県田辺町牟婁新報社

◎主筆 毛利柴庵（もうりさいあん）

◎解説 門奈直樹（かどなちき）
（立教大学教授）

武内善信（和歌山市立博物館学芸員）

牟婁新報

明治三十四年四月三日
毎週三回発行
（日吉町）

本紙 定価 五厘
（郵外郵税五厘）
料 別 五厘
（五號活字二行廿字、讀賣回七錢）
特別廣告（二行拾貳錢）
編輯 野村米太郎
發行 田邊町大字中屋敷町電番地
和歌山縣四牟婁郡
牟婁新報社

社会主義・環境保護・宗教の自由など
現在にも通じる地球的規模のテーマを
正面から論じ、紙面を通して提起。
自由民権運動は土佐の山間から、
社会主義運動は紀州の海岸から、と堺利彦に
いわしめた革新メディア、待望の復刻！
二〇〇二年五月刊行開始！



不二出版（株）

右から毛利清雅（柴庵）、
二人おいて本山彦（大毎
社長）、川島草堂、南方熊
楠（一九二九（昭和四）年五
月、南方邸庭先にて）

◎推薦 鶴見和子

高嶋雅明
中瀬喜陽
堀切利高
赤松徹真

初期社会主義の二牙城 堀切利高

関山直太郎編著『初期社会主義資料——牟婁新報抄録』に接して、ぜひ実物を見たいと思いつながらようやく田辺を訪ねたのは一九七二年だから、もう三〇年ほど前になる。池田千尋氏の御案内で脇村義太郎氏寄託の同紙を田辺市立図書館で初めて見た。そのとき撮った写真のアルバムが残っているが、思えば当時は今のようなコピー機がまだ普及していない時代であった。

『牟婁新報』に執着したのは、荒畑寒村が堺利彦の紹介で一九〇五年二月に入社し、翌〇六年四月に退社する間、詩に、論説に特に癡娼論に健筆を揮った、初期の寒村を知るには欠かせない新聞だからである。寒村だけではない、その前には小田頼造、豊田孤寒が在社し、大石誠之助が寄稿し、成石平四郎も関わっている。柴庵もマークス(マルクス)の筆名を使うなど、地方の小新聞ながら、「大逆事件」前の一時期、初期社会主義の一牙城ともなった新聞なのである。

そして一九〇六年二月、菅野すがが入社してくる。毛利柴庵夫人のお話では、袴をつけて靴をはかれて、それは優しい方でしたと。緋の着物に袴をはいて書生さんみたいだったという寒村。二人の運命的な出会いもこの『牟婁新報』だった。別れに際して菅野が紙上に発表した「寒村君を送る」は、今読んでも理解にみちたい文章だと思う。同じ年の五月末、その菅野も田辺を去った。

……ほりきりとしたか、平民社資料センター

●関連図書のご案内(復刻版)

- 横浜活版社ほか刊(明治三年、明治三九年刊)
横浜毎日新聞《全二四九巻・別冊二》
- 本紙は、明治三年、日本で初めての日刊新聞として創刊された。当初は貿易商況記事を主としていたが、政論新聞時代の展開と共に政治性を帯びていき、明治十二年、編集局を横浜から東京へ移し、紙名も「東京横浜毎日新聞」と改め、民権派言論の一翼を担うに至り、俄然注目を集めた。日本近代史研究に必須の基礎的資料。
- 解説Ⅱ 甘利璋八十門泰直樹
 - A4判/上製/59、010頁
 - 別冊Ⅱ 解説(甘利璋八十)第一期(1~45巻)の総目次(全3巻)
 - *このみ分売可(本体揃価60,000円十税)
 - 揃定価Ⅱ 本体2,950,000円十税
 - '89年5月、'99年10月配本完結
 - 推薦Ⅱ 内川芳美 十北根豊 十羽鳥知之 十服部一馬

●秋山定輔Ⅱ 主宰(明治二六年、明治四二年刊)

二六新報《全四八巻》

本紙は、藩閥政治反対を唱え、朝鮮問題や中国の動向に注目した独立の政論新聞であったが、いったんは経営難から休刊した。明治三三年、再興された「二六新報(第二次)」は、三井財閥攻撃、娼妓自由廃業支援、労働者懇親会の開催など社会問題のキャンペーンに重点をおき、紙面を大衆向けに面白くし、かつ廉価販売によって、全盛時代を迎えた。

- B4判/上製/18,000頁
- 揃定価Ⅱ 本体960,000円十税
- '92年6月、'96年6月配本完結
- 推薦Ⅱ 飛鳥井雅道 十荒瀬豊 十姜在彦 十山本武利

牟婁新報

二〇世紀初頭の良質の言論を代表する新聞 赤松徹真

待ち望まれていた、『牟婁新報』が復刻される。

二〇世紀初頭の時代のうねりは、帝国主義へと舵をとりながら、それへの批判は社会主義へと傾斜しつつあった。その時代状況に毛利柴庵は仏教僧として対峙しながら、厳しく時代を、政治を、人間のありようを問い、新たな仏教像・社会像を求め、そして荒畑寒村ら若き記者を迎えて、地域から言論を展開した。その言論は、個別的状态に関わって多様性に富むものであるが、その言論の基本的な志向は、毛利柴庵の思想性に深く関わる。また、南方熊楠らをはじめ多くの寄稿論説は、近代(日本)と近代(日本)との相剋・確執などを内包して、多くの研究課題を提示するものである。

さて、二一世紀への第一歩を踏み出した今日、時代のうねりは、いかなる方向へと舵をとっているであろうか。東西対立の世界秩序が崩壊し、二項対立の思考様式のパラダイムが揺らぐ中で、政治や人間の煩悶は広く、深くなりつつある。さらに毛利柴庵が立脚しようとした仏教のありようも根底的に問いなおされている。

二〇世紀初頭の良質の言論を代表する『牟婁新報』の復刻は、二一世紀の入り口に存在する私たちにいかなるものをもたらそうとするのか。このたびの『牟婁新報』の復刻は、研究に関わるもののみならず、時代に呻吟す



多くの人がにとっても意義は大きい。
……あかまつてっしん 龍谷大学文学部教授



牟婁新報社員のピクニック
田辺本島海岸にて。
中央手前杯を手にしたのが柴庵

●桐生悠々Ⅱ 主宰(昭和九年、昭和一六年刊) 他山の石

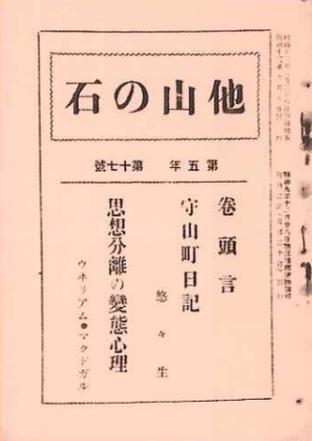
本誌は、戦前期の反骨・不屈のジャーナリスト桐生悠々主宰の個人雑誌である。憲法を盾として議会政治と国民の自由回復をくりかえし主張し、軍部による政治の危険を訴え、反戦を唱える。度重なる弾圧・検閲にも挫けることなく抵抗し続けた、ひとりのジャーナリストの良心が脈打っている本誌一七三冊を復刻。

- 別冊Ⅱ 解説 荒瀬 豊・総目次・索引
- *このみ分売可(本体1,000円十税)
- A4判/上製/函入/1,490頁
- 揃定価Ⅱ 本体60,000円十税
- '87年9月刊
- 推薦Ⅱ 家永三郎 十井出孫六 十太田雅夫 十むのたけじ

●大杉 栄・荒畑寒村Ⅱ 主宰(大正元年、大正五年刊) 近代思想

大逆事件後の社会運動の「冬の時代」、大杉栄、荒畑寒村らは、「時機はむしろ自らの手で作り出すべきだ」として『近代思想』を発刊した。個人主義の社会化を主張したが、大正三年には文芸雑誌にあきたらず、自ら廃刊し、社会革命の原動力を労働者に求め、月刊『平民新聞』を創刊する。相次ぐ発禁の後の第二次『近代思想』もあわせて全一七号を完全復刻。

- 付録Ⅱ 堀切利高・総目次・索引
- *このみ分売可(本体1,000円十税)
- 菊判/各号並製/函入/1,360頁
- (特装版)揃定価Ⅱ 本体28,000円十税
- '82年7月刊
- 推薦Ⅱ 瀬戸内晴美 十西田勝 十松尾尊允
- *合本版は品切れ





中央着物姿・南方熊楠、
その左洋服姿・毛利柴庵。
一九三五年（昭和一〇年）
南方邸裏庭にて

〔復刻版〕

むら

牟婁新報

しんしゅう

〔第Ⅱ期〕

一九三三→一九三六年

◎全九巻

◎揃定価 本体二四三、〇〇〇円十税

◎発行 和歌山県田辺町牟婁新報社

◎主筆 毛利柴庵（もうり さいあん）

牟婁新報

和歌山発 日本へ、世界へ——
社会主義・環境保護・宗教の自由など
現在にも通じる地球的規模のテーマを
正面から論じ、紙面を通して提起。
いま「地方の時代」に送る、
革新メディア、待望の復刻！
二〇〇三年六月刊行開始！

（毎月十五回奇数日発行）
定価一枚一錢五厘一月分
貳拾錢同郵税七錢五厘
廣告五號字詰一行廿錢
特別廣告同一行四十五錢
發行兼編輯人 雜賀貞次郎
印刷人 森本 延吉
發行所 和歌山縣西牟婁郡
田邊町大字上屋敷一七
牟婁新報社
電話 四拾五番

不二出版



中央・南方熊楠

報新集年 (Main title of the newspaper)

一萬金... (Small advertisement or notice)

大に警察官の注意を望む (Editorial title: Expecting attention from police officers)

出ると出るぞ村長判官 (Editorial title: Out and out, village chief judge)

自由 富本 東翠 (Editorial text)

行政 裁判所長官は... (Editorial text)

二塚原左門 (Editorial text)

大に警察官の注意を望む (Continuation of editorial)

行政 裁判所長官は... (Continuation of editorial)

二塚原左門 (Continuation of editorial)

大に警察官の注意を望む (Continuation of editorial)

行政 裁判所長官は... (Continuation of editorial)

二塚原左門 (Continuation of editorial)

大に警察官の注意を望む (Continuation of editorial)

行政 裁判所長官は... (Continuation of editorial)

二塚原左門 (Continuation of editorial)

大に警察官の注意を望む (Continuation of editorial)

行政 裁判所長官は... (Continuation of editorial)

二塚原左門 (Continuation of editorial)

羊婁新報 (Section title)

刊行日... (Publication details for the section)

全五卷十册 (Section title)

刊行日... (Publication details for the section)

復刻版概要 (Section title)

刊行日... (Publication details for the section)

推薦者 (Section title)

推薦者... (List of recommenders)

赤松徹真 (Section title)

赤松徹真... (Text about the author)

堀切利高 (Section title)

堀切利高... (Text about the author)

中瀬喜陽 (Section title)

中瀬喜陽... (Text about the author)

高嶋雅明 (Section title)

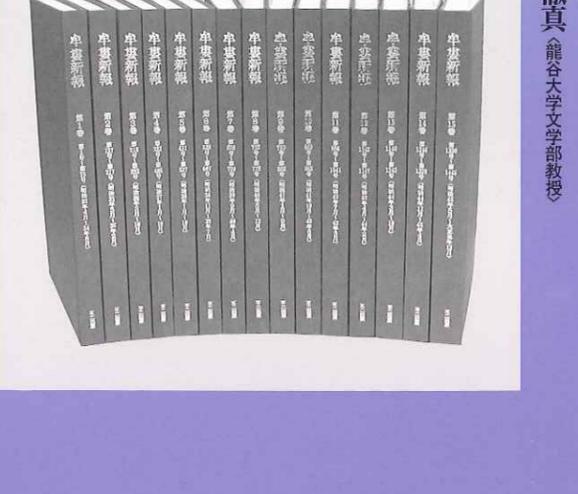
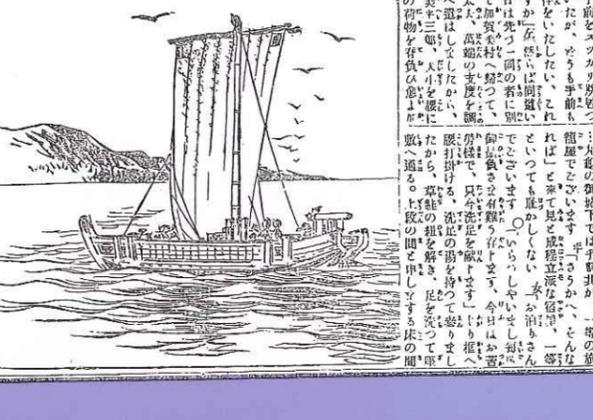
高嶋雅明... (Text about the author)

和歌山大学経済学部教授 (Section title)

和歌山大学経済学部教授... (Text about the author)

Table listing volumes and their contents, including titles like '第一回配本' and '第二回配本'.

横濱毎日新聞 (Section title) and related text about the newspaper's history and content.



牟妻新報

參 賞

人は一代 (上)

帝都文壇の新進大家大住君は新年第一巻を
して斯くの如き長篇を寄せられたり

大住 嘯 風

△偉人は風化す。遺傳を以て其の偉人を子孫に傳ふるよりも、其の行為を以て同代人に傳ふるを多しとす。是れ歴史の識する所、偉人一人に於ては、其の偉大なる所を、子孫に傳ふるよりも、同代人に傳ふるを多しとす。此れが、偉人は風化するの所以なり。

△偉人は風化する。遺傳を以て其の偉人を子孫に傳ふるよりも、其の行為を以て同代人に傳ふるを多しとす。是れ歴史の識する所、偉人一人に於ては、其の偉大なる所を、子孫に傳ふるよりも、同代人に傳ふるを多しとす。此れが、偉人は風化するの所以なり。

△偉人は風化する。遺傳を以て其の偉人を子孫に傳ふるよりも、其の行為を以て同代人に傳ふるを多しとす。是れ歴史の識する所、偉人一人に於ては、其の偉大なる所を、子孫に傳ふるよりも、同代人に傳ふるを多しとす。此れが、偉人は風化するの所以なり。

△偉人は風化する。遺傳を以て其の偉人を子孫に傳ふるよりも、其の行為を以て同代人に傳ふるを多しとす。是れ歴史の識する所、偉人一人に於ては、其の偉大なる所を、子孫に傳ふるよりも、同代人に傳ふるを多しとす。此れが、偉人は風化するの所以なり。

△偉人は風化する。遺傳を以て其の偉人を子孫に傳ふるよりも、其の行為を以て同代人に傳ふるを多しとす。是れ歴史の識する所、偉人一人に於ては、其の偉大なる所を、子孫に傳ふるよりも、同代人に傳ふるを多しとす。此れが、偉人は風化するの所以なり。

遠山雪 鈴木重純
新年歌 百井英期生

- 謹賀新年
- 武田 卯之助
 - 大淵 宇三郎
 - 榎本 久助
 - 目崎 貞次
 - 山崎 喜市
 - 日見 庄次郎
 - 津見 庄次郎
 - 深見 庄次郎
 - 富家 甚助
 - 那須 甚助
 - 長谷川 登造
 - 小谷 金藏
 - 裏地 寛一
 - 後藤 要助
 - 岩本 茂助
 - 井本 茂助
 - 加藤 善吉
 - 中山 正良
 - 中山 正良
 - 鈴本 喜兵衛
 - 前田 勝太郎
 - 伊藤 嘉四郎
 - 山本 藤之助
 - 山本 藤之助
 - 小本 源五郎
 - 竹本 文太郎
 - 鈴木 文太郎
 - 宮本 啓三郎
 - 森脇 竹藏

- 謹賀新年
- 田邊本町
 - 川熊商店
 - 武藏屋
 - 岩田屋

牟妻新報

定価一冊二角五分
全一冊二角五分
別冊二角五分

既刊

牟妻新報(第一期・第二期・補卷)

全二四卷・補卷一十別冊一

一九〇〇(明治三三)年四月〜一九一六(大正五)年収録

B4判A4判/上製/約八八五四ページ

別冊II解説 門奈直樹十武内善信/執筆者索引(第一期のみ)

(別冊のみ分売可)II二〇〇〇円十税

ISBN4-8350-3089-3

刊行II二〇〇一年五月〜二〇〇二年一月/二〇〇三年六月/二〇〇四年七月(配本済)

前定価II本体六九一、〇〇〇円十税



写真は第一期(全15巻)

●第一期・配本概要

●第一回配本II二〇〇一年五月刊 ISBN4-8350-3069-9

●第一卷 明治三三年四月〜三四年八月/三二八ページ

●第二卷 明治三五年五月〜三六年二月/三六四ページ

●第三卷 明治三六年三月〜一〇月/二九二ページ

●第二回配本II二〇〇一年一〇月刊 ISBN4-8350-3073-7

●第四卷 明治三七年一月〜一〇月/二九八ページ

●第五卷 明治三八年一月〜一〇月/三四八ページ

●第六卷 明治三八年一月〜三九年七月/三四四ページ

●第三回配本II二〇〇二年一月刊 ISBN4-8350-3077-X

●第七卷 明治三九年九月〜四〇年四月/三三六ページ

●第八卷 明治四〇年五月〜一二月/三二〇ページ

●第九卷 明治四一年一月〜九月/三六四ページ

●第四回配本II二〇〇二年五月刊 ISBN4-8350-3081-8

●第一〇卷 明治四一年一〇月〜四二年六月/三七〇ページ

●第一二卷 明治四二年七月〜四三年三月/三六八ページ

●第一四卷 明治四四年一月〜四五年四月/三五八ページ

●第二期・配本概要

●第六回配本II二〇〇三年六月刊 ISBN4-8350-5132-7

●第一六卷 大正一年一月〜六月

●第一七卷 大正一年七月〜二月

●第一八卷 大正二年一月〜六月

●第七回配本II二〇〇三年一〇月刊 ISBN4-8350-5136-X

●第一九卷 大正二年七月〜二月

●第二〇卷 大正四年一月〜六月

●第二一卷 大正四年七月〜大正五年二月一五日

●第二二卷 大正五年一月一六日〜五月

●第二三卷 大正五年六月〜九月

●第二四卷 大正五年十月〜二月

●第八回配本II二〇〇四年一月刊(第二卷〜第四巻はA4判)

●第二五卷 大正五年十月〜二月

●第二六卷 大正五年三月〜六月

●第二七卷 大正五年七月〜九月

●第二八卷 大正五年十月〜二月

●補卷

●補卷II二〇〇四年七月刊 ISBN4-8350-5144-0

●復刻版第一期・第二期刊行後に発見された、復刻版未収録の二〇号分と、原紙の一部が欠損・汚損していた四五号分を補う。

●付録II復刻版「牟妻新報」補巻に寄せる池田千尋/解説 新たに発見された「牟妻新報」の重要資料(武内善信付き)

●定価II本体二八、〇〇〇円十税

牟婁新報(第三期)

●復刻版概要

全九卷+別冊一

一九二七(大正十六)年〜一九二〇(大正九)年
A4判・B4判/上製/約二六〇〇ページ

刊行〓二〇〇五年五月〜二〇〇六年一月(全三回配本)

別冊〓解説・執筆者索引

別冊のみ分売可〓予価〓一〇〇〇円十税
ISBN4-8350-5157-2

揃定価〓本体二四三、〇〇〇円十税

推薦〓鶴見和子(上智大学名誉教授)

高嶋雅明(和歌山大学経済学部教授)

中瀬喜陽(南方熊楠邸保存顕彰会理事)

堀切利高(平民社資料センター)

赤松徹真(龍谷大学文学部教授)



南方熊楠(一九〇三年、姪甥らと。
*本パンフレット掲載の南方熊楠関係の写真は、
すべて「南方熊楠アルバム」八坂書房より転載しました。

牟婁新報

本報創刊(發行)月十五(日)
定価(一冊二錢)月三錢
郵費別(郵便)月三錢
電話掛切(電話)月三錢
五銭掛切(電話)月三錢
印刷部(印刷)月三錢
田邊(田邊)月三錢
七(七)月三錢
格(格)月三錢

●第三期・配本概要

●第九回配本〓二〇〇五年五月刊(第二五卷〜第二七卷はA4判)

第二五卷 大正六年一月〜七月

第二六卷 大正六年七月〜九月

第二七卷 大正六年一〇月〜十二月

セット定価〓本体七五、〇〇〇円十税
ISBN4-8350-5145-9

●第一〇回配本〓二〇〇五年一〇月刊

第二八卷 大正七年一月〜六月

第二九卷 大正七年七月〜十二月

第三〇卷 大正八年一月〜六月

セット定価〓本体八四、〇〇〇円十税
ISBN4-8350-5149-1

●第一一回配本〓二〇〇六年一月刊

第三一巻 大正八年七月〜十二月

第三二巻 大正九年一月〜五月

第三三巻 大正九年七月〜十二月

別冊 解説・執筆者索引(第II・III期分・全巻購入者無料)
セット定価〓本体八四、〇〇〇円十税
ISBN4-8350-5153-X

既刊〓第一期「第一〜五回配本」

第一巻〜第五巻十別冊一

揃定価〓本体四二〇、〇〇〇円十税

第二期「第六〜八回配本」

第一六巻〜第二四巻

揃定価〓本体二四三、〇〇〇円十税

補巻〓本体価格二八、〇〇〇円十税

●表示価格は、全て税別。



110054

不二出版(株)

〒113-0023 東京都文京区向丘1-2-12
電話(03)3812-4433
ファクシミリ(03)3812-4464
振替00160294084



右から三人目・徳川頼備
その左・南方熊楠

〔復刻版〕

むろ

牟婁新報

しんぱう

補巻

牟婁新報

回拾月

▲紀元 貳千五百六十七年
▲西暦 壹千九百〇七年
▲新刊代價壹枚壹錢五厘一ヶ月分
▲十枚千四錢▲郵税一ヶ月五錢
▲廣告料五錢活字十八字計一行十
▲四錢特別廣告十八字計一行廿錢
▲發行所 栗山松之助
▲印刷 毛刺 浦雅
▲發行所 和歌山縣西牟婁郡牟婁新報社
田邊町上原敷町貳番 貳拾貳番
▲發行日 西曆 壹千九百〇七年 七月 廿六日
廿日 廿日 廿日 廿日

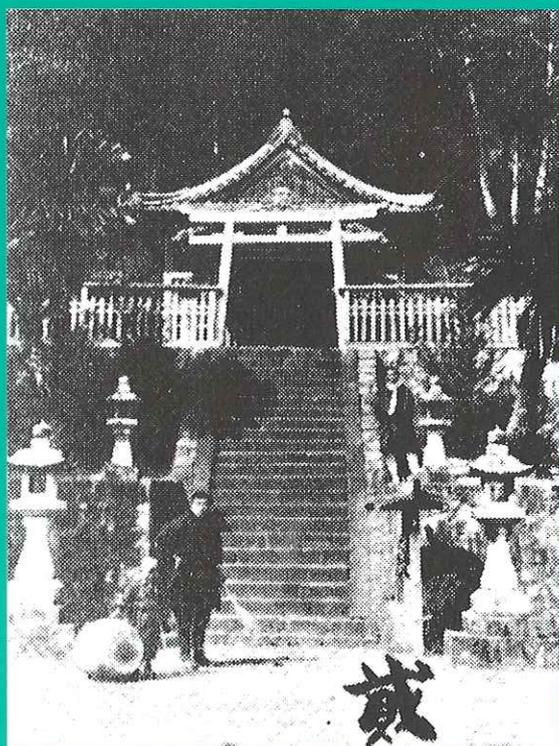
不二出版

復刻版『牟婁新報』〔第Ⅰ期・第Ⅱ期〕刊行終了後、毛利柴庵旧蔵の原紙及び南方熊楠旧邸所蔵原紙があいついで発見！既刊復刻版に収録されていなかった欠号・二〇号分と原紙の一部が欠損・汚損していた四五号分を補充する。

『南方熊楠全集』にも未収録の南方熊楠著作「神社合祀反対意見」「隠れ蓑、隠れ笠、打出の小槌」などが初公開となる。

二〇〇四年七月刊行！

◎定価 本体二八、〇〇〇円十税
◎発行 和歌山県田辺町牟婁新報社
◎主筆 毛利柴庵(もうりさいあん)



矢田村入野の大山神社。
合祀反対運動にもかかわらず、
一九一三年合祀撤却された。

牟婁新報〔補卷〕

◎復刻版概要

補卷

一九〇二(明治三五)年〜一九一六(大正五)年
B4判/上製/二五八ページ
刊行 二〇〇四年七月

定価 本体二八、〇〇〇円十税

推薦 鶴見和子(上智大学名誉教授)

高嶋雅明(和歌山大学経済学部教授)

中瀬喜陽(南方熊楠顕彰会理事)

堀切利高(金民社資料センター)

赤松徹真(龍谷大学文学部教授)



南方熊楠、一九〇三年。姪甥らと。
*本ハフトレット掲載の南方熊楠関係の写真は、
すべて「南方熊楠アルバム」八坂書房より転載しました。

◎関連図書のご案内〔復刻版〕

横浜活版社ほか刊(明治三年、明治三十九年刊)

横浜毎日新聞〔全一四九巻、別冊二〕

本紙は、明治三年、日本で初めての日刊新聞として創刊された。当初は貿易商況記事を主としていたが、政論新聞時代の展開と共に政治性を帯びていき、明治二年、編集局を横浜から東京へ移し、紙名も「東京横浜毎日新聞」と改め、民権派言論の二翼を担うに至り、俄然注目を集めた。日本近代史研究に必須の基礎的資料。

●解説 甘利璋八十門泰直樹

●A4判/上製/59、010頁

●別冊 解説(甘利璋八)十第一期(1〜45巻)の総目次〔全3巻〕

*これのみ分売可(本体価60、000円十税)

●挿定価 本体2、950、000円十税

●'99年10月配本完結

●推薦 内川芳美(北根豊十羽鳥知之十服部一馬)

秋山定輔 主宰(明治二六年〜明治四二年刊)

二六新報〔全四八巻〕

本紙は、藩閥政治反対を唱え、朝鮮問題や中国の動向に注目した独立の政論新聞であったが、いったんは経営難から休刊した。明治三年、再興された「二六新報」(第二次)は、三井財閥攻撃・娼妓自由廃業支援・労働者懇親会の開催など社会問題のキャンペーンに重点をおき、紙面を大衆向けに面白くし、かつ廉価販売によって、全盛時代を迎えた。

●B4判/上製/18、000頁

●挿定価 本体960、000円十税

●'96年6月配本完結

●推薦 飛鳥井雅道(荒瀬豊十美在彦十山本武利)

●表示価格は、全て税別。



二〇〇四五

不二出版(株)

〒113-0023 東京都文京区向丘1-2-12
電話(03)3812-4433
ファクシミリ(03)3812-4464
振替001600-294084